

ふれまち八多

第 189 号

<編集・発行>



八多ふれあいの
まちづくり協議会
TEL 078-982-0514

「移住希望者向けホームページ」開設！

～「人」と「思い」を未来につなげる取り組み～



Q. 八多町のお家に入り口の写真

(相談の人)
「お家の外観や内装を見て、外目もあまりに古にならないでほしい。
建物は重厚感があり、自然から見える併んび等」おおむね地元の景色でほしい。
自然環境が良くないを見えない生き物にもなると嬉しいです。」

(参考物)
同じくお家を一番好きです!
参考までに提出された写真ボヤ(ハート)、カスミ(カブト)、虫子(イカロ)をしてます!」



TOP 八多町について 移住希望者向け ご近所までの流れ 登録フォーム 移住者の声 よくある質問

キーワードは
「便利な田舎暮らし」

八多町では、町内の「空き家」や「家賃を考
えている方」と「多くに住みたい人」とマッチング
することで、地域の活性化を目指しています。

車で移動するだけでなく、
「人」「J」や「思い」をつなぐことを
最大のミッションにしています。

八多町について

1. 地域の特色

八多町は農業の本拠地に位置し、耕地面積約2,100ha、常住人口3,000人が暮ら
しています。八多町は北三河の奥山の山間地帯で、多くの農業（水稻栽培）による農業生産に主
力があります。また、八多町はアメドウやわらぎ、草花（ヒュウガタケ）などの名産品を育
んでいます。また、八多町は「人」「J」や「思い」をつなぐことを最大のミッションにしています。

2. 生活・暮らし

八多町は農業の本拠地に位置し、耕地面積約2,100ha、常住人口3,000人が暮ら
ています。八多町は北三河の奥山の山間地帯で、多くの農業（水稻栽培）による農業生産に主
力があります。また、八多町はアメドウやわらぎ、草花（ヒュウガタケ）などの名産品を育
んでいます。また、八多町は「人」「J」や「思い」をつなぐことを最大のミッションにしています。

「実家が空き家になり、処分に困っている子ども世代」、「子どもも帰つてこないので家を整理したい親世代」など、八多町内で家じまいに関してもお悩みの方、八多出張所（TEL：982-0002）までお気軽にご相談ください。

※ホームページには「移住者の声」も掲載しておりますのでぜひご覧ください。（ふれまち八多ホームページのリンク（トップページ右下）よりアクセスできます）

の流れになっています。

- ① 「移住希望者向けホームページ」を通じて連絡のあつた方に対して、八多出張所でヒアリングを行い、移住希望者リストに登録
- ② 空き家でお困りの方・家じまいを考えている方のお話を八多出張所でお聞きし、現地で物件調査を実施
- ③ 地域のご理解・ご協力を得ながら、マッチング（引き合せ）
- ④ 双方合意が取れれば、契約成立

一方で、コロナ禍におけるリモートワークの普及等によつて、農村里山地域への関心がますます高まっており、「わりと便利な田舎暮らし」ができるということで、八多町への移住相談も着実に増えています。そういった方々の希望を聞き、「地域活性化につながる人材」と「空き家でお困りの方・家じまいを考えている方」とのマッチングを行う取り組みを開始しました。具体的には、

① 「移住希望者向けホームページ」を通じて連絡のあつた方に対して、八多出張所でヒアリングを行い、移住希望者リストに登録

② 空き家でお困りの方・家じまいを考えている方のお話を八多出張所でお聞きし、現地で物件調査を実施

③ 地域のご理解・ご協力を得ながら、マッチング（引き合せ）

④ 双方合意が取れれば、契約成立

八多町では、若年世代の流出により空き家が増加しています。空き家が放置されると、ごみの放置や草木の繁殖により里山景観が悪化するほか、倒壊や倒木により他人に損害を与えると所有者が賠償責任を負う可能性もあります。

住民自治組織代表者と区長との懇談会

八多町自治協議会からの要望3点

令和4年度の標記の会が11月2日(水)に予定されています。八多町自治協議会からは懸案となっている次の3点を要望します。なお、回答は後日お知らせします。

①屏風辻・瀧・宮坂線道路拡幅について

1. 現状

屏風辻・瀧・宮坂線は、八多町と大沢町を効率よく結ぶ道路で、利便性の高い道路です。しかしながら、八多町西側の山陽道北側から大沢町大沢「北六甲カントリー俱楽部」に至る区間については、道幅が狭く見通しも悪いため、大変危険です。このため、早期の拡張整備、道路舗装について従来より要望してまいりましたが、当該区間の地権者により令和元年6月に突然閉鎖され、車両の通行が全く出来なくなつてからすでに3年以上になります。

地権者との交渉が始まり、一部測量実施中ともお伺いしますが、通行の確保についての見込みはどうでしょうか?また、道路拡張整備につきましても一層ご努力いただきたいと思います。

2. 要望

①通行止めの解除について

道路として通常の利用に供していた道について、地権者が通行を止めるという異常状態が3年以上続いていること、通勤などで利用していた多くの市民が大幅な迂回を余儀なくされております。拡張・整備計画と関連するとは思われますが、当面通行できるようにお願いしたい。

②拡幅・整備について

長年の懸案ですが、八多、大沢両町の地元自治会、八多出張所、大沢出張所、北建設事務所と協議を進め、連携のもと地権者の了解を得て、早期の道路拡幅・整備を早期に実現していただきたい。

②八多・淡河バスの乗車利用促進施策について

1. 現状

一昨年の10月から「八多淡河バス」という名称ではたっこバスの淡河町への延伸、早朝や夕方の便の新設、土日の運行などと路線バスの減便を補完しあう対策を本格実施いただいております。これまで地元も当バスの維持存続のため、乗車促進を働きかけるとともに、地元負担が生じた場合の財源対策として車内広告の獲得や新たに「八多淡河バスサポーターズクラブ」への会員募集などに取り組んでまいりましたが、新型コロナ禍でイベントはほとんど実施できず、外出自粛やバスの乗り控えなど、交通機関にとって極めて厳しい状況です。そんな中でも、淡河八多バスの試験運行の状況は、目標乗車実績は何とか目標をクリアし、なんとか存続の道筋が見えてまいりました。

バス便が存続・充実していることが、里山定住や地域魅力の基盤です。この路線を存続させるため、できるだけ地元負担が発生しないよう不測の事態に備えていただき、ご支援・ご協力をお願いしたいと存じます。

2. 要望

①八多淡河バスの本格実施にあたって、八多町民・淡河町民および藤原台地区・北神星和台地区の住民が利用出来るようなルートや時刻表の調査・検討および利用拡大を実施するための施策・方法について、ご検討をお願いしたい。

②八多・淡河町民の地元負担が無くなるよう、種々の施策を講じていただきたい。

③八多義務教育学校の教育環境の充実について

1. 現状

八多小学校校区からの通学利便性の理由による鹿の子台小学校等への指定外通学によって八多小学校の児童数が激減しており、この危機的状況を踏まえ、10年ほど前から指定外通学の見直しをお願いしてまいりました。

市教委でご検討の結果、令和5年度から八多小・中学校を統合して9年間一貫の義務教育学校(港島学園に次いで2校目、里山エリアでは初)としてスタートすることとなり自治協議会をはじめ地域団体もしっかりと学校をサポートしていきたいと考え、準備を進めております。

しかしながら直近4年間の小学校入学者数は7名、11名、7名、9名であり、今後の児童生徒数の見込みを推計しますと、中地区など八多校区内で他校への通学が認められている地域も含めても子どもの減少傾向が著しく、義務教育学校として適切な教育環境を確保することが困難な状況が開校当初から予想され、不安に思っています。

2. 要望

- ①里山地区最初の義務教育学校として教育内容を充実させてほしい。
- ②中地区など八多小・中学校以外への指定外通学が可能な世帯にむけて八多義務教育学校を強力に推奨していただきたい。
- ③近隣校区からの八多小・中学校への指定外通学を認める事によって児童減少を食い止めていただきたい。



日	曜日	時間	担当団体	学年
9月9日	金	15:50~16:30	民生・社協	4
10月7日	金	15:50~16:30	消防団	6
10月14日	金	14:50~15:30	婦人会	2
10月28日	金	15:50~16:30	青少協	3
11月11日	金	15:50~16:30	明寿会	5
12月9日	金	14:50~15:30	自治会	1

ご長寿おめでとうございます 80才以上は266名・最高齢が100才

令和4年9月1日現在で八多町内の80才以上の長寿者は266名です。内訳は最高齢の100才が2名、90才台が75名、80才台は189名です。ご長寿おめでとうございます。

今年も9月の「敬老の日」前後に八多町自治協議会からささやかなお祝いの品を各地区の区長さんを通じてお贈りしました。八多町発展のためにいろいろとご尽力いただきましたことに感謝申しあげます。今後とも健康に留意されいつまでもお元気でお過ごしください。

なお、各地区別の長寿者数は以下の通りです。

※個人情報保護のため、個人名は掲載いたしません。

地区名	中	下小名田	上小名田	吉 尾	柳 谷	附 物	深 谷	屏 風	西 烟
人数	30	19	37	42	28	44	18	33	15

●年齢は令和5年3月末日までに満80才になられる方



「八多ふれあい市民健診」終わる

今年もふれあいセンターで8月24日(水)に「八多ふれあい市民健診」を実施。平成27年にスタートしたこの健診も8回目を迎えすっかり定着し、受診者は57名。予防医学協会や北神区役所保健福祉課・八多淡河あんしんすこやかセンター・八多の里など多くの関係者のみなさんには大変お世話になり、ありがとうございました。「1年に1回は健康診断を!」を合い言葉に、今後とも「健康長寿の町八多町」を目指してしていきたいと思っています。ご協力よろしくお願いします。

助つ人君(その後)

屏風活動組織代表 奥町 菜世

屏風地区のラジコン式草刈機(以下、助っ人君:仮称)は導入から約5ヵ月が経過し、稼働時間も70時間に達しました。そこで、これまでの使用経験から性格・実力が少しづつ分かってきたのでつぶやきです。

まず始めに、助っ人君はよくできた働き者と云えます。人手では二の足を踏みそらなところも果敢に攻めてくれます。

例えば、1mを超えるセイタカアワダチソウなどは難なく処理し、人手ではなかなか手ごわい2mを超える背丈のススキの群生も着実に刈り取ることができました。これは遊休農地発生防止のために大きな力を發揮してくれることでしょう。

一方で、不整地の穴凹や溝に落ち込む、又はぬかるみでスタッツする等トラブルが少なからず発生しました。助っ人君は自重が360kgと重いため、一人では対処できないことが多く、その脱出方法は複数人や重機等の支援が必要となります。

地区ではこれらのトラブルにも対処できるよう、複数人（4～5人がベター）で自走式草刈機や刈払い機を組み合わせて、安全を確保しながら共同作業をする運用に努めています。

今後は助っ人君に愛称を付ける等、我々のより身近な相棒として安全に注意を払いながら活動範囲を広げていく予定です。



八多淡河バス利用者数（合計・日平均）

目標値… 平日 40 (人/日)・休日 10 (人/日)

3年ぶりに北建設事務所長の現地視察！

新型コロナの感染拡大で中断していた北建設事務所長の現地視察。今年は所長や課長の異動もあり、特にお願いして3年ぶりに復活しました。八多町は広いので8月26日(金)・30日(火)、9月6日(火)の午後と3日間に分けて実施。

福水所長・本田課長・武田係長がこれら、先日提出した要望書を元に各地区長・副地区長が現地で直接説明。生の声を直接聴いて丁寧に現地を視察いただきました。ありがとうございました。

なお、八多町からは岡田会長・西中副会長・馬瀬副会長・矢野八多出張所長・三浦係長が同行しました。



*八多町善意銀行にご芳志をいただいた方
柳谷お花の会・花笑み様（特別寄付）
ありがとうございました

地域の自然に关心を持つ！

令和5年4月より義務教育学校となる八多小・中学校。

夏季授業日の8月26日(金)、八多小学校6年生の教室に、屏風の里づくり拠点「magatama field (マガタマ・フィールド)」の遠藤修作さん(39歳)をお迎えして、総合学習の授業が行われました。

「環境を守る仕事がしたい」と考えるようになったきっかけや、実践する「半農半X」の暮らし方・複業スタイルの働き方などについて遠藤さんからお話しいただき、子供たちにとって貴重な時間になったのではないかと感じます。

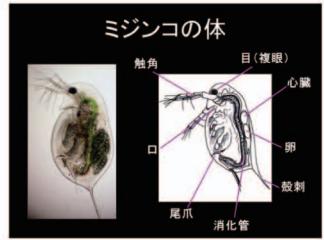
また、大学時代に研究されていたミジンコの話を熱心に聞いたり、実



際にふれあい農園に出かけ、田んぼの生き物や環境について楽しく学ぶ姿がとても印象的でした。

子どもたちからも「初めて休眠ミジンコ（水のない環境を生き延びる生態系）見た」「ミジンコって頭をトガらせて身を守るんやあ」「複業ってええなあ」「身边にこんなにすごい人がおったんや！」と元気な声が飛び交っていました！

講師をつとめた遠藤さんも「身近な生き物をとおして、地域の自然に关心を持つきっかけになれば嬉しいです。これからも、地域の魅力を活かした八多小中学校ならではの授業づくりをサポートしていきます！」と笑顔で語ってくれました。



「どーんと八多を楽しく元気にする会」のInstagramに授業風景（写真・動画）を掲載しています！
八多町の魅力を発信していますので、ぜひフォローをお願いします！

編集後記

いよいよ神戸市里山地区との義務教育学校開校まであと半年になりました。学校現場では着々と準備が進んでいます。「小中合同運動会」

や「はたっこフェスティバル」（従来の小学校音楽会と中学校の文化祭を合体した行事）も開催されます。ぜひ一度学校にも足を運んでください。八多町全体で新しい学校を盛り上げましょう。

プロの講師がダンスレッスン！

9月7日(水)、OSK日本歌劇団のりつき杏都さん、凛華あいさんを講師にお招きして、八多小学校・中学校の児童・生徒がダンスレッスンを受けました。

[小1～小4(2時間目)、小5～中1(3時間目)、中2～中3(4時間目)に分かれて実施]

OSK日本歌劇団は、大正11年に結成、大阪の伝統ある歌劇文化を継承して人気を博し、宝塚歌劇団、松竹歌劇団と並ぶ日本の三大少女歌劇として知られ、今年で創立100周年を迎えます。

授業の冒頭、ウォーミングアップのストレッチで悲鳴をあげる生徒・教員もいましたが、足を高く上げるラインダンスの基礎を



義務教育学校のパンフレットを手にするりつき杏都さん(右)、凛華あいさん(左)

教えていただく中で、音楽にあわせて表現するダンスの魅力・楽しさを体全体で味わっていました。

また、生徒一人ひとりに作っていた認定証は子どもたちの宝物になりました！

普段接することのない「その道のプロ」の技を目の当たりにし、直接レッスンをいただいたことは、子どもたちにとって貴重な財産となったことでしょう。

OSK日本歌劇団の皆さん、ありがとうございました！

